記者発表資料
平成２９年　３月２９日（水）
三陸道・大島架橋・唐桑最短道整備促進課
担当：齋藤（内線５６５）

大島架橋中央径間架設に関する
市長コメント

■　大島架橋（気仙沼大島大橋）中央径間架設に関する市長コメントは，以下のとおりです。

【市長コメント】

本日，大島架橋の中央径間が架設され，大島地区住民長年の悲願である大島と本土が陸続きとなったことは，誠に感慨深く，架橋促進運動に携わってこられた先人の皆さまのご尽力に心から感謝申し上げます。

架橋完成によって，地区民にとって救急医療や火災対応など，居住における安全性の向上，通勤，通学，通院の時間短縮など日常生活の利便性向上が図られるほか，人の往来による観光客の増加，物の往来による第１次産業の活性化など，大島はもとより気仙沼市全体の地域振興に寄与するものと考えております。

完成予定の平成３０年度末まであと２年となり，待ち遠しい状況とはなりますが，大島架橋（気仙沼大島大橋）愛称「鶴亀大橋」と，県道大島浪板線 通称「龍宮海道」を利用しての話題づくり，さらに完成までには三陸沿岸道路の（仮称）気仙沼湾横断橋も形を表し，この二つの橋と道路が気仙沼のシンボルとして，なお一層の観光振興，交流人口や移住者の増加に大きく寄与することを期待しています。

これまで用地などのご協力をいただいた地権者の方々をはじめ，宮城県当局と工事関係業者など，関係機関のご尽力や，特にこれまで大島架橋実現に向けご尽力を賜りました関係全ての皆さまに改めて敬意を表し，大島架橋中央径間架設のお祝いと御礼のコメントといたします。